

B—88 植物染料の染色に関する研究
染色温度による色差と染色堅ろう度について

福岡学芸大 田中 登美

1. 植物染料の染色において、同一媒染剤を用いた場合の染色温度の高低、せんの種類による発色を比較し、染色堅ろう度については、せんの種類、染色温度、媒染剤の種類による差異を比較検討した。

2. 植物染料は五倍子、玉葱等9種類について、媒染剤は各染料とも3、4種類を使用し、試料布は綿と絹を用いた。煎液の温度は高温は綿95~98°C、絹90~95°C、低温は室温とし、媒染剤は室温で染色した。染色堅ろう度は、水、洗たく、日光、摩擦に対する堅ろう度を試験した。

3. ① 染色温度の高低による色の差が見られないものは、玉葱、カテキューの綿の場合と他に僅かあるが、大部分は色相が異なるか、濃淡が見られ、例外もあるが、高温で染色したものが濃く、ややくすむ傾向がある。

② 洗たく、水堅ろう度は、試料布の種類による堅ろう度の差が見られ、全般的に絹の堅ろう度が大である。染色温度による堅ろう度の差があるものもある。日光堅ろう度は、試料布の種類、染色温度による差があるのは少ない。摩擦堅ろう度は、試料布の種類による差は殆んどなく、染色温度による堅ろう度の差があるものが少し見られた。